

大切な思い出



終活の中で思い出す人

吉田昭和(北九州市小倉北区)

七十歳を過ぎると、人生も愈々最後の直線コースと思える。私が歩んできた人生で、多くの人に会い、多くの人のお陰で、此処まで来れた事に感謝している。今、その中で特に思い出される人を紹介したい。



私の小学一年生(荏田町南原小学校)の担任・宮本先生である。映画「二十四の瞳」の「おなご先生」の様な方だった。容姿も子供たちへの接し方も、映画の中の主人公の様な方であり、一年生の小さな子供達にとっては、母親のような先生でもあった。私の結婚式に

出席頂いた時には、大変喜んで頂き、祝辞では、二年前に他界していた父の事をお話し頂き、母と私は感激に涙した事を覚えている。その後、年賀状の交換のみで、お会いする事がなかった事が悔やまれる。もう一人は、荏田中学時代の同級生の太田君である。高校生になってから、音信不通であったが、十数年前に中学の同級生から、転校した私に、同窓会の案内を頂いた時に、太田君の連絡先

を知った。計測機器メーカーの役員で、海外赴任が永く、中国に単身赴任という時であった。年に数度会う機会を楽しみとしたが、数年前、体調を崩し、闘病生活の後亡くなった。男兄弟のな

い私には、兄弟の様な存在であっただけに残念であった。今、残念で、後悔してる事は、親しい人との途中連絡を途切れさせた事である。



懐かしき故郷の思い出

阿部正紀(築上郡吉富町)

懐かしきふるさとへの思い出の歌、という童謡があったと思う。今回は歌のことではなく、前半の懐かしき故郷の事について書いてみたいと思う。



母さんを知っているが、

十九歳の時に故郷を離れてからもう六十年以上になるのか。

懐かしい人々
はもうほとんど残っていない。九十五歳と九十歳の小悪ガキの子供達を遠慮なく叱ってくれた小母さん連中はもういない。我々も歳をとったものだなーとつくづくと思う。人のことではなく、思い出すことを

記してみる。

あの道かどには風呂があったな！とか、あそこには古井戸があったな！とか。不思議なことに鮮明に覚えているもの。

自宅の前の道は、幅が狭く当時は舗装もされていなかった。ために、雨に季節にはドロコンの悪路に変わっていた。石垣の下からは清水がチョロチョロと流れており、幅二十センチ位の溝になつていた。道路から自宅の敷地に上がるためにはその溝を越さねばならなかった。

超すために平べったい石が置かれていた。これをガンギ、ガンギと言っていた。「雁木」と書く。

雁木などという古い言葉を思い出した。多分現在にはほとんど死語に近く、今の方は雁木という言葉そのものを知らないのではないか。

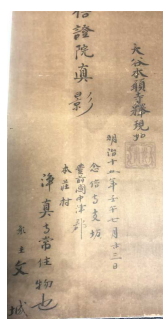


浄真寺納骨堂より本堂と町がよく見える



○正紀氏のお父様、阿部正念師は浄真寺住職として、お母様静子様は坊主として、同行さんたちの集うお寺を拠点にして本庄地区の仏法興隆を支えて下さいました。

○この度、蓮如上人の御絵像を修復しました。裏書きを見ると、明治15年に本山東本願寺より浄真寺に下附されています。



お参りの日々



村上 宣(念信寺若院)

6月に入り、福岡は梅雨に入るかと思いますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。



私は先月、5月2日に北海道札幌に渡り、6日より「教願寺」というお寺で働かせていただいています。土地勘がなく、気候も大きく違い、戸惑いも不安も多くあったのですが、幸いにも多くの方に優しく手助けをしてもらい、何とか新生活を送っています。

早くもひと月が経ち、福岡を懐かしく思い、違いに目を向けてみると、やはり気候の違いが目になります。こちらはもう6月というのに少し肌寒く、過ごしやすい気候が続いており、教願寺さんの門徒の方々曰く、「一番過ごしやすい時期にきたね」とのことです。そういった後には決まって「冬は気を付けよ」と言われて下さるので、今から半年後に思いを馳せ、戦々恐々としています。

福岡と北海道の共通点は、今まさにコロナの患者数の多さがあるかと思えます。ワクチン接種が少しずつ始まっていますが、まだどう転ぶか分かったものではありませんから、気をつけて日々を過ごせたらと思います。

